

平成 21 年 4 月 6 日現在

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2006～2009

課題番号：18530757

研究課題名 (和文) 大学における広汎性発達障害者への支援  
- 大学生実態調査と支援体制の構築をめざして -

研究課題名 (英文) Support for the Students with Pervasive Developmental Disorders in University - Investigation to build an Advanced Support System -

研究代表者

北添 紀子 (KITAZOE NORIKO)

高知大学・教育研究部医療学系・講師

研究者番号：70284437

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・特別支援教育

キーワード：広汎性発達障害、大学生、支援体制、Autism-Spectrum Quotient

## 1. 研究計画の概要

本研究の目的は広汎性発達障害のある大学生の実態把握と大学としての支援の方向性を探ることにある。

## (1) Autism-Spectrum Quotient (AQ) 調査

新入生を対象として The Autism-Spectrum Quotient (AQ) を行った。支援を行うための基礎的資料としての実態把握と直接支援につなげる目的である。AQ が高得点の学生に対しては面接を呼びかけ、広汎性発達障害が疑われた学生に対しては継続面接を提案した。

## (2) 学生支援、支援体制づくり

継続面接を通じて具体的な支援について検討していく。また、行った支援、行おうとしてうまくいかなかった支援についても分析を行い、大学としての支援体制を構築する方向性を探る。

## (3) 啓蒙活動

教職員に対して発達障害の啓蒙活動を実施する。

## 2. 研究の進捗状況

## (1) Autism-Spectrum Quotient (AQ) 調査

新入生を対象として、面接希望の有無、

University Personality Inventory (UPI)、AQ を行った。平成 18 年度、19 年度、20 年度の回答者 2664 名 (回答率 91.3%)。AQ 得点がカットオフポイントである 33 点以上は 99 名 (3.7%)、そのうち 46 名と面接をした。46 名のうち広汎性発達障害が疑われた学生は 15 名であった。AQ 得点以外の理由で面接を行った学生のうち 4 名で広汎性発達障害が疑われた。これらの学生に対しては継続面接を提案した。

AQ の調査時期の妥当性を検討するために、2 年生に対しても AQ を実施し値の変化をみた。入学時の AQ が 33 点以上の群では、AQ 得点と、下位項目である社会的スキル、コミュニケーションで、入学時の得点に比べ 1 年後の得点が有意に低下していた。

## (2) 学生支援、支援体制づくり

対人関係に関する支援は、従来の心理療法的な手法を活用し行った。学業に関する支援は、学内経費 (総合センター長裁量経費) を用いて年長の学生による個別補習を実施した。また、個別補習の実施要項も作成した。就職に関する支援は就職情報室と連携し、特

性を考えて、ハローワークとも連携をし、個別に支援を行った。

広汎性発達障害のある学生の自己理解を促し、学生同士の自助活動を援助することを目的として保健管理センターが主催するグループ活動を行った。広汎性発達障害の特性と就職についてテーマを絞り、障害者職業センターの見学も行った。参加者からは今後もグループ活動が継続されるように強い要望があった。

### (3) 啓蒙活動

発達障害の啓蒙活動として外部講師を招聘して学内外聴講者対象に講演会を開催した。学内教職員を対象として保健管理センタースタッフが研修会を開催した。教職員向けの発達障害のある学生の支援のためのパンフレットを作成し、配布を行った。

## 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している  
(理由)

実態調査は当初と啓蒙活動は当初の計画通り進んでいる。支援が効果的であるか否かは事例によって異なる。大学として実現可能な支援体制の構築にはまだ課題が多い。

## 4. 今後の研究の推進方策

大学としての支援体制の構築をめざして、必要でかつ実現可能な支援について検討していく必要がある。また、今後は発達障害の診断をうけ、自らも支援を希望して入学する学生が増加することが予想される。大学として実施可能な支援を公開し、学生、家族が支援にアクセスしやすくする。

## 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2 件)

- (1) 北添紀子、藤田尚文、寺田信一、是永かな子、泉本雄司、植田啄佐、大学生における自閉症スペクトラムの実態調査 -the Autism-Spectrum Quotient 結果の分析-、LD 研究、18(1)、66-71、2009、査読有。
- (2) 北添紀子、泉本雄司、寺田信一、是永かな子、藤田尚文、植田啄佐、吉倉紳一、

広汎性発達障害を有する学生のサポート、CAMPUS HEALTH、45(2)、93-97、2008、査読有。

[学会発表] (計 6 件)

- (1) 北添紀子、泉本雄司、渋谷恵子、大学における自閉症スペクトラム障害のある学生への支援、第49回児童青年期精神医学会総会、2008年11月6日、広島市
- (2) 北添紀子、植田啄佐、藤田尚文、泉本雄司、是永かな子、寺田信一、大学生における自閉症スペクトラムの実態調査 - AQ 結果の分析 (第2報) -、第45回全国保健管理研究集会、2008年10月30日、京都市
- (3) 是永かな子、水内豊和、スウェーデン・イエーテボリ大学における障害学生への教育的対応の現状と課題、第17回LD学会、2008年11月22日、広島市

[図書] (計 0 件)

[その他]

朝日新聞(夕刊)平成20年2月23日(土)に関連記事が掲載された。